

# あの日あの日 ⑤

このコーナーは、東日本大震災が発生した当時の様子などを皆さんにお聞きして連載していくコーナーです。

今回は、歌津中野にお住まいの平形明子さんに話を聞きました。



平形 明子さん  
(歌津中野)

## 地震直後

あの日、本当であれば志津川保健センターで開催される健康づくり行事に参加する予定でした。なぜか気が進まなかったの、参加するのをやめて主人と二人で家にいました。突然の大きな地震に驚き、私は庭に飛び出し地面にしゃがみこみました。あんなに長い時間揺れている地震は、

これまでに経験したことがなく、立つこともできませんでした。揺れがおさまったとき「絶対に津波が来る！」と思い、すぐに行政区の集会所である港親義会館に向かいました。私の家では、集会所の鍵を管理しており、行政区の皆さんが避難してくると思ったからです。

## 現実とは思えない光景

集会所で飲み水の準備などをしていると、すぐに行政区の皆さんが避難してきました。とても不安そうな表情をしていたのを覚えています。そして、まわりの様子が気になり、高台からあたりを見渡したときでした。ふと、国道側を見ると、津波により民家の屋根が国道45号線を越えてきたのです。普通では到底考えられない光景に、恐怖というよりも「これって現実なの？」と頭が混乱してしまいまし

た。その後、道路は寸断され、電気も水も無い生活が始まることにより、厳しい現実を思い知らされることになるのです。

## 不安な生活と感謝の気持ち

集会所には、50人近くの人たちが寝泊りをするようになりました。食べ物はみんなで持ち寄り、焚き木を集めてカマドで調理をしましたが、この生活がいつまで続くのかと不安な毎日を過ごしました。しばらくすると、アジア協会の人たちがボランティアで入ってくれました。私たちのために、本当に親切に一生懸命働いてくれました。もし、私が逆の立場だったら、他人のためにここまでできるだろうか？多くの皆さんに支援いただいたことは、これからの子どもたちに、確実に伝えていかなくてはならないことだと思えます。

## これから必要なこと

電気や水が通じないときの生活、そして万が一のときの避難路の把握など、これからは、地域の人たちで十分な話し合いをする必要があると思います。今回の震災により、個人の力ではどうにもできないことがあると思い知らされました。お互いに助け合うことが必要です。そのためにも、これから住宅の高台移転などが始まると思いますが、地域のコミュニティーを大事にしたまちづくりをしてほしいと思います。

## 編集後記

▶ 昨年は、震災や原発問題が深刻だったため、新年の年賀状に「おめでとう」という言葉を使うことを慎んだ方が良いという風潮があるようです。一方、それに反して、こんな時だからこそ、前向きに「おめでとう」という言葉が必要だという声もあります。どちらの意見が正しいかは、人の価値観にも左右されると思いますが、どんな時でも健康が第一です。皆様にとって、健やかな年になりますよう、心からお祈り申し上げます。▶ さて、例年、新年号の表紙を何にしようかと頭を悩ませており、今年は特に悩みました。日の出の写真、町の様子、港で働く人たち、どさくさに紛れて息子と娘の写真か…。などと考えているうちに、伊里前福幸商店街の取材で、いい写真が撮れました。地元にある地元の店で買い物ができるといのは、普通のことのようですが、町の復興にかかせないことのひとつなんですよ。皆さんの笑顔が、それを物語っていたように思います。 担当 加藤

## わが家のアイドル



そら  
佐々木 蒼空くん

(◎袖浜)

平成23年4月6日生まれ

パパ 秀司さん

ママ 絵梨佳さん

### おうちの方より一言

蒼空は、家族にとっ  
て宝物です♥

これからも、みんな  
に愛されて元気にすく  
すく育ってね♥